


# 復興のアンカーとなる人と文化を支援する形で帰還に向けた環境づくりを推進

地域名	福島県南相馬市	「より良い復興」を実現するための重要な観点	避難訓練等のソフト対策
取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災の被災地の中で、原発事故によって被災した福島県の場合、その他の被災地に比べて長期避難を強いられている。このような長期避難の場合、被災地での復興まちづくりとあわせて避難住民の避難先でのコミュニティ形成や被災地とのきずなづくり、行政機能も含めた段階的な帰還プロセスの設計が重要な鍵となる。</li> <li>● 南相馬市小高区は、現在は避難指示区域に指定されているが、2016年春の避難指示解除を目指し、帰還に向けた環境づくりが進められている。このような帰還に向けた環境づくりに向けて、小高区の場合、行政のみならず地域住民による自発的な取り組みも見られる点が特筆される。</li> </ul>		
取組みのポイント	<p>① 復興のアンカーとなる存在を行政が支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (株)小高ワーカーズベースは、復興支援などで当地を訪れる市民活動団体のコワーキングスペースの運営を皮切りに、食堂・食品スーパーの経営にゼロから取り組んでいる。どのくらいの人が地域に帰ってくるのか不透明な中では、商売を再開しても利益を出せるかが分からないため、「もう一度もとの場所に戻る」ことに希望が見出せない人は多い。しかし「だからこそ誰かがアンカーとなって取り組みを始め、『もう一度もとの場所に戻る』の希望を自分が示したいと思った」と(株)小高ワーカーズベースの和田氏は語る。</li> <li>● (株)小高ワーカーズベースを運営する食品スーパーは、店舗を南相馬市が提供する「公設民営」の運営形態となっている。また、代表の和田氏は南相馬市が進める小高地区の「復興拠点」の企画にも携わっており、行政とも連携しながら同地区の帰還に向けた環境づくりを先導する存在となっている。</li> </ul> <p>② 地域と住民をつなぎとめる文化の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小高地区は、「相馬野馬追」の拠点の1つである小高神社を抱えている。毎年7月に開催される「相馬野馬追」では、この小高神社で出陣式と野馬懸が行われるが、震災後も2年目の平成24年から小高神社での出陣式が再開されている。</li> <li>● 「相馬野馬追」の出陣式に参加する騎馬会のメンバーも、先祖代々の騎馬に対する思いを受け継ぎ、出陣式当日は小高区の自宅に戻り、自宅から出陣することに意義を見出している。このように「相馬野馬追」という地域の文化が、地域と住民をつなぎとめる存在となっている。</li> </ul>		<p>《主な経緯》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2011年 3月11日 東日本大震災の発災</li> <li>● 2011年 3月12日 小高区を含む20km圏内に避難指示</li> <li>● 2011年 4月22日 小高区を含む20km圏内が警戒区域となる</li> <li>● 2012年 4月16日 区域見直しを通じて、小高区は警戒区域が解除され、避難指示区域となる</li> <li>● 2012年 7月28日 小高神社にて相馬野馬追（野馬懸）を再開</li> <li>● 2014年 5月15日 小高ワーカーズベースの立ち上げ</li> <li>● 2014年12月 8日 食堂「おだかのひるごはん」が開店</li> <li>● 2015年 9月28日 スーパー「東町エンガワ商店」が開店</li> </ul> <p>小高神社での「相馬野馬追」の様子</p>  <p>(出所)南相馬市観光協会ホームページ</p>

# 復興のアンカーとなる人と文化を支援する形で帰還に向けた環境づくりを推進

おだかのひるごはん  
(小高ワーカーズベースが運営)



※「おだかのひるごはん」は2016年3月11日に閉店し、震災前の双葉食堂として再開予定である。

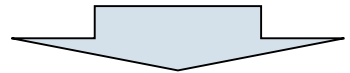
東町エンガワ商店  
(南相馬市が整備し、小高ワーカーズベースらが運営)



※南相馬市との契約上は、小高ワーカーズベースと菓詩工房わたなべの2者で運営している。

小高神社での相馬野馬追

1日目の小高神社での出陣式



3日目の小高神社での野馬懸

